

一 音樂 (ピアノ彈奏)

五月六日

午前八時開會

一 音樂 (管絃合唱)

一、遊戲の交換

一、音樂 (管絃合奏)

休 憩 (畫食)

午後一時開會

一、音樂 (ピアノ彈奏)

一、隨意談話

一、音樂 (大阪市歌ピアノ伴奏)

散 會

新刊紹介

●家庭雜誌第一號 堺 枯川 編輯

家庭の新風味を畫いた枯川氏が、大方一人で編輯せらるゝ雜誌である。従つて彼書を讀んだ人には大低此雜誌の風が分ると思ふ。

我輩は此の様な雜誌が普く一般家庭に歡迎せられん事を希望する
定價一冊六錢 發行所、本郷區本郷二ノ四 由分社)

會 報

第七總會

先月二十一日午後一時半、女子高等師範學校附屬幼稚園に於て開會せり。初に中村主幹の開會の辭ありて次に會務報告、唱歌(保姆合唱の歌)に移り夫より井口あぐり嬢の「衣食住と體育との關係」(説林に登載)に付さての演説あり。次に林蝶子、安井こら子二嬢のピアノ、ワイオリンはいと面白く合奏せられ、夫より幹事投票、休憩あり此間に陳列品など隨意參觀せられ更にタツピング夫人の演舌あり(次號に掲載すべし)て、熱心なる口調もて夫人自身の境遇より説き及ぼして普く世の保姆女子教育家に希望せられたる所、頗る聽者の感動を引きたりしが如し。夫よりは餘興として筑前琵琶

晉（太田道灌、袈裟御前、黄海の戰）あり、遂に
 隨意談話、君が代を以て閉會せしは五時過ぐる頃
 なりき。

當日は朝來雨天にて午後よりは益々甚しかりし
 が夫にも係らず、來會者百有餘人に及び、頗る盛
 會を極めたり。尙中村主幹開會の辭は左の如し。

前略 本會も創立以來段々年を重ねまして今年
 で第七總會になつて居ります、七年と申します
 と人間一生涯から見ますれば先づ小學校に這入
 るべき年齢に達したものであります、併し人間
 一代は赤子時代、幼稚園時代、少學校時代、青
 年時代、壯年時代、老年時代があつて、其の各
 時代の年數は凡そ定まつて居ります、然るに會
 の如きものは生れてから何年と云つて其の極ま
 りがない、従つて其中の時代に於きましても青

年時代は何年であつて、壯年時代は何年である
 と云ふ様な極りはない様に思ひます、さうして
 今申す如く全体から極まりがない様なもの、人
 の命は百年以内が多くて百年以外は少ない様であ
 ります會は百年二百年は愚か永久に傳へらるゝ
 ものと思ひます、それでありますから會の如き
 は今年七歳の齡に達したと云ふことは人間に比ぶ
 れば小學校時代に達したと云ふことになりませう
 ども、會の時代から申せば小學校時代に達したか
 其邊は判らぬと思ひます、會は人の一生涯とは
 異つて一年経つても壯年と云ふ時代に達するか
 も知れぬ、五十年経つても赤ん坊の境涯を免か
 れぬもあるかも知れぬ、さういふ風で年で以て
 會の發達は何の位に達したと云ふことは極める
 ことは出來ぬものと思ひます、斯う考へれば我

ガフレール會は七年の星霜を経まして人間の時代に比ぶれば何時代と定めて宜しいかこれは皆さんの御判断に任かして私からは何の時代と云ふことを申し上げませぬ。此の會をして壯年時代に達せずして赤坂の境涯にあつて世の中に立つて働くとも出来ぬ位置にありとせば早く壯年に達して世の中に立つて働きを爲し、其の壯年時代を長く續けて老ひばれてからに此の世の中に何の功を爲すことなくして唯々命を繋ぎて居る様なことでない様に致したいと思ひます、故に一口に言へば此の會をして早く壯年時代に達して其の壯年で以て長く續いて行く様に致したいと存じます、これは皆さんの御盡力に依つてさういふ事に致すより他ないと思ひますから此に自分が望む所を述べまして會長に代り開會

の辭と致します。

當日特に祝電を贈されたるは、會員千崎如幻氏。

幹事當選

改選の結果、左の五氏幹事に當選せられたり。

下田 鶴 田中 ふみ 松村 久

山下 つや 大橋 いぬ

會務報告 第七年 自明治三十五年四月 至同 三十六年三月

一 事業 昨年度内に遂行せし事業は本會規則に規定せる如く左の諸項とす

一 總會 一度 三十五年四月二十日開會

一 常會 四度 六月十月 十二月 二月

一 組合會 八度

組合會は幼兒發育研究組合會の一種にして現在組合員十九名あり

在組合會は從來の如く毎月一回最終土曜日 に於て開き文學士松本孝次郎氏の兒童心理學と醫學士長瀬復太郎氏の衛生の講話ありたり其の講話題目左の如し

兒童心理

- 一、視覺に就き
- 二、聽覺に就き
- 三、觀念に關する研究
- 四、記憶に關し
- 五、想像力に關し
- 六、子供の畫方に就き
- 七、子供の遊に就き
- 八、情緒に就き

衛生

- 一、學校衛生
- 二、救急處置

一雜誌發行 十二度 毎月一回

右事業を實行する爲に幹事會を開くこと四度

一客員、會員數

一客員總數 二十二名

一會員總數六百五十二名

男	五十三名	在京地方	二百五十七名
女	五百九十九名	在京地方	三百四十七名

入會

名古屋高等女學校

名古屋高等女學校

全

金澤市上柿木畠六番地

女子高等師範學校寄宿舎

全

全

下谷區徒町三丁目十七番地

小石川區高田豊川町日本女子大學校

全

愛知縣知多郡龜崎町北浦

糠町區富士見町六丁目十番地

栃木縣足利幼稚園

全

館つね

右中村五六氏紹介

小久保とも

宮村順

小野清

右館つね子氏紹介

中屋とみ

平川よし

加藤きつ

藤谷いわ

右松村久子氏紹介

波邊かず

佐野とく

木村一千代

右武井綱枝氏紹介

伊東せつ

右林富美子氏紹介

安西せい子

右山下つや子氏紹介

青山孝子

安田倫子

右北野晴子氏紹介

七十五

日本橋區常盤幼稚園

小石川區小日向武島町十一番地

北海道札幌女子尋常小學校

日本橋區横山町二丁目十六番地

日本橋區本銀町一丁目六番地

神田區表神保町一丁目一橋幼稚園

全

小石川區月崎町二十六番地

轉居

奈良縣北葛城郡高田町古川橋東詰福富きん方へ

兵庫縣明石村女子師範學校へ

長野縣松本町尋常高等小學校へ

四ッ谷舟町三番地へ

東京府立第一高等女學校へ

下谷區永住町百二十六宮本方へ

周防國山口町後河原町九十三番屋敷

赤坂區新町五丁目卅九番地へ

右橋本はな子氏紹介
佐々木 まさみ

右和田くら子氏紹介
武井 はつ

右龍澤みち氏紹介
鈴木 又衛

右小林千年氏紹介
山田 糸子

右脇屋なほ子氏紹介
廣瀬 みつ

右雨森劍子氏紹介
多田 きう

右武井綱技氏紹介
青山 千代

右藤 操

早川 しか

藤堂 忠次郎

勝村 こま

三須 とし
村山 つね
徳永 ふく
桑野 ます
吉田 たみ

會費領收 自三月二十六日 至四月二十五日

安東てい	一金十	錢	三十六年四月	村井あ
木村とらふ	一金十	錢	三十六年四月	相川みね
藤岡とき	一金十	錢	三十六年四月	内田たね
岩田ゆき	一金十	錢	三十六年四月	益田一枝
奈良あい	一金十	錢	三十六年四月	山田糸子
藤並京	一金十	圓	三十六年三月	大賀ふく
高橋いち	一金一圓二十錢	錢	三十六年五月	大橋いぬ
近藤はま	一金六十錢	錢	三十六年五月	成瀬きよ
吉澤とも	一金六十錢	錢	三十六年四月	淺岡はま
牧野かね	一金一圓二十錢	錢	三十六年三月	小曾根よし
	一金一圓二十錢	錢	三十六年三月	
	一金一圓七十錢	錢	三十七年一月	

一金四	一金五	一金五	一金九	一金五	一金六	一金六	一金六	一金一圓二十錢	一金一圓二十錢	一金一圓二十錢	一金五	一金六	一金六	一金六	一金一圓二十錢	一金五	一金一	一金六	一金六
十錢	十錢	十錢	十錢	十錢	十錢	十錢	十錢	十錢	十錢	十錢	十錢	十錢	十錢	十錢	十錢	十錢	圓	十錢	十錢
自三三	自三三	自三三	自三三	自三三	自三三	自三三	自三三	自三三	自三三	自三三	自三三	自三三	自三三	自三三	自三三	自三三	自三三	自三三	自三三
十六年	十六年	十六年	十六年	十六年	十六年	十六年	十六年	十六年	十六年	十六年	十六年	十六年	十六年	十六年	十六年	十六年	十六年	十六年	十六年
五月	五月	五月	五月	五月	五月	五月	五月	五月	五月	五月	五月	五月	五月	五月	五月	五月	五月	五月	五月

吉川	山口	清水	牛田	柴岡	岩村	安藤	山下	中野	關谷	山崎	服部	福尾	安田	青山	北野	堤澤	瀧澤	山崎
さい	きよ	あ	い	い	あ	あ	あ	あ	あ	あ	あ	あ	あ	あ	あ	あ	あ	あ

一金八	一金一	一金一圓二十錢	一金一圓二十錢	一金一	一金一	一金一圓十錢	一金五	一金一圓三十錢	一金十	一金三十	一金一圓二	一金一圓二十錢	一金三十	一金一	一金二	一金六	一金六	一金一圓二十錢
十錢	圓	十錢	十錢	圓	圓	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	圓	錢	錢	錢	錢
自三三	自三三	自三三	自三三	自三三	自三三	自三三	自三三	自三三	自三三	自三三	自三三	自三三	自三三	自三三	自三三	自三三	自三三	自三三
十六年	十六年	十六年	十六年	十六年	十六年	十六年	十六年	十六年	十六年	十六年	十六年	十六年	十六年	十六年	十六年	十六年	十六年	十六年
五月	五月	五月	五月	五月	五月	五月	五月	五月	五月	五月	五月	五月	五月	五月	五月	五月	五月	五月

富岡	十文字	喜多島	澤	福井	佐々	鳥居	佐々木	橋本	永田	北村	山口	岩下	安西	池邊	小岩	柳井	早川	志村
梅	と	し	ひ	榮	き	げ	ま	な	し	と	三	ほ	い	束	い	つ	い	か

婦 人 と 子 の 第 三 卷 第 五 號

一金九 十 錢
 一金六 十 錢
 一金一圓十 錢
 一金六 十 錢
 一金五 十 錢
 一金五 十 錢
 一金六 十 錢
 一金一圓二十 錢
 一金五 十 錢
 一金五 十 錢
 一金五 十 錢
 一金五 十 錢
 一金六 十 錢
 一金一圓二十 錢
 一金五 十 錢
 一金五 十 錢
 一金五 十 錢
 一金五 十 錢
 一金五 十 錢
 一金五 十 錢

自三十五年七月
 自三十五年七月
 自三十五年七月
 自三十五年七月
 自三十五年七月
 自三十五年七月
 自三十五年七月
 自三十五年七月
 自三十五年七月
 自三十五年七月
 自三十五年七月
 自三十五年七月
 自三十五年七月
 自三十五年七月
 自三十五年七月
 自三十五年七月
 自三十五年七月
 自三十五年七月
 自三十五年七月

脇屋 なほ
 脇屋 よし
 千田 孝壽
 後藤 いと
 加藤 たけ
 大竹 みさほ
 吉住 きくえ
 永田 かい
 内田 かね
 稲葉 かね
 後藤 りん
 田中 ふみ
 三須 とし
 丸山 かく
 柴崎 い
 千葉 ひで
 妹尾 明
 岡田 ちよ
 山中 下枝

一金一
 一金五 十 錢
 一金一圓二十 錢
 一金二 十 錢
 一金二 十 錢
 一金二 十 錢
 一金二 十 錢
 一金二 十 錢
 一金二 十 錢
 一金二 十 錢
 一金二 十 錢
 一金二 十 錢
 一金二 十 錢
 一金二 十 錢
 一金二 十 錢
 一金二 十 錢
 一金二 十 錢
 一金一圓二十 錢
 一金二 十 錢

自三十七年四月
 自三十七年四月
 自三十七年四月
 自三十七年四月
 自三十七年四月
 自三十七年四月
 自三十七年四月
 自三十七年四月
 自三十七年四月
 自三十七年四月
 自三十七年四月
 自三十七年四月
 自三十七年四月
 自三十七年四月
 自三十七年四月
 自三十七年四月
 自三十七年四月
 自三十七年四月
 自三十七年四月

武井 はつ
 伊東 かりめ
 和田 くら
 鷲森 よしる
 有賀 貞
 篠原 しき
 山田 熊之進
 川島 ふじ
 對馬 かめ
 和田 いえ
 佐々木 茂
 松田 左和
 龍澤 みち
 津原 ちか
 佐藤 藻
 阿知 和早苗
 吉田 まさ
 中屋 とみ
 芳賀 きぬ

一金六 十錢	一金一 圓二十錢	一金一 圓二十錢	一金六 十錢	一金三 十錢	一金五 十錢	一金五 十錢	一金五 十錢	一金五 十錢	一金五 十錢	一金五 十錢	一金一 圓	一金二 圓	一金一 圓	一金一 圓	一金二 圓	一金一 圓	一金一 圓	一金一 圓五十錢
自三 十六年 八月	自三 十六年 十二月	自三 十七年 一月	自三 十六年 六月	自三 十六年 三月	自三 十六年 八月	自三 十六年 四月	自三 十六年 八月	自三 十六年 四月	自三 十六年 五月	自三 十六年 九月	自三 十五年 七月	自三 十六年 七月	自三 十六年 二月	自三 十七年 四月	自三 十七年 七月	自三 十七年 一月	自三 十六年 十二月	自三 十六年 二月

高島長江	松村貞	脇野ついで	川島みつみ	小向きみ	野尻てつ	小谷野かね	小谷野千代	伊東せつ	林富美	森乙女	神田順	岡みやこ	久保やま	野村すぎ	村山つね	神代まさ	間人たね	小松ちか
------	-----	-------	-------	------	------	-------	-------	------	-----	-----	-----	------	------	------	------	------	------	------

一金五 十錢	一金三 十錢	一金三 圓	一金一 圓二十錢	一金五 十錢	一金五 十錢	一金五 十錢	一金二 圓四十錢	一金三 十錢	一金一 圓	一金六 十錢	一金二 十錢	一金六 十錢	一金六 十錢	一金六 十錢	一金六 十錢	一金六 十錢	一金六 十錢	一金六 十錢
自三 十五年 九月	自三 十六年 四月	自三 十六年 七月	自三 十六年 二月	自三 十六年 六月	自三 十六年 六月	自三 十六年 六月	自三 十五年 十二月	自三 十六年 六月	自三 十六年 六月	自三 十六年 十一月	自三 十六年 八月	自三 十六年 三月	自三 十六年 八月	自三 十六年 三月	自三 十六年 八月	自三 十六年 八月	自三 十六年 八月	自三 十六年 三月

V
U
O
R
I
A

齋藤清太郎	土井玉子	前田捨松	鹽野吉兵衛	中尾いくへ	曾野きくえ	中村しげ	波多野あぐり	中村五六	勝村こま	胡桃澤田鶴	市川はるよ	黒田きんよ	多湖甲子生
-------	------	------	-------	-------	-------	------	--------	------	------	-------	-------	-------	-------